

「きっかけ」と「伴走」

私は地域にどんなアプローチをしていける？

目次

01

私のこと・まちのこと

02

事例発表テーマを考える

03

「産業まつり」の復活と青年たちの思い

04

結局、社会教育は何をしたのか

05

まとめ

01

私のこと・まちのこと

私のこと（自己紹介）

- ・ 1994年（平成6年）生まれの30歳
- ・ 父、母、兄の4人家族のもとに生まれ、現在は妻と2人暮らし
- ・ 小学校～大学までは「バレーボール」（セッターとリベロ）
- ・ 北海道教育大学釧路校を卒業し、白糠町役場へ奉職（H30.4～）
- ・ 1年目のときに訳も分からず「社会教育主事講習」へ
- ・ 令和3年4月より社会教育主事を発令
- ・ 今年で社会教育係7年目（奉職から異動はなし）



～しそ香るまち **白糠町**～

- 人口 6,997人 (男性 3,286人 女性 3,711人)
 面積 773.13km²
 (釧路市、足寄町、本別町、浦幌町と隣接)
 地形 太平洋に面しており、南北に長い地形
 特産 海産物 (鮭・いくら・ししゃも・柳だこ など)
 羊肉、チーズ、紫蘇 (紫蘇焼酎「鍛高譚」)
 学校 小学校1校、中学校1校、義務教育学校2校、
 高等学校1校
 ○まちのイベント
 6月 白糠大漁まつり
 7月 巖島神社例大祭、海中神輿渡御
 8月 港inしらぬか花火大会
 9月 カミングパラダイス
 10月 **プチ産業まつり**

今日のメインテーマ!

02

事例発表テーマを考える

○メインテーマ

「持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」

○サブテーマ（釧路管内）

「多種多様な人・団体との交流を生み出す仕掛け方の探求」

メインテーマ

「持続可能な社会の実現に向け、
地域の
可能性を引き出す
学びをつくる
社会教育のあり方」

私の解釈

「持続可能な社会」には、
「地域」が必要不可欠！なので、
その様々な可能性を引き出すための
「学び」をつくるためには、
社会教育はどんなことをしたらいい？

(目的を達成するためにはどのような手段をとればよいか)

「持続可能」～これからも続けていくことができる

➡ 次の世代を育て、つないでいくこと・・・？

ってことは、

「誰を育てて、何を つないでいくか」

03

「産業まつり」の復活と青年たちの思い

「産業まつり」

～昭和49年に第1回が開催され、以降町内の様々な産業を知り、楽しむことができる一大イベントとなったが、徐々にイベントが分かれていってしまった。（平成8年まで）

（漁業→大漁まつり、商工→カミングパラダイス、農業→ホワイトファームフェスタ）



「白糠青年交流会」

～白糠町内の青年が集まり交流を深める会（平成11年度～現在）

各青年部の部長が幹事となり企画し、事務担当として社会教育係が運営等を行う。



ある年の青年交流会で・・・

今はもう第6次産業で、加工も販売も
自分たちでできるようにならないと

青年部も少なくなってきた、
イベントやるのが大変なんだよな

魚の鮮度が落ちないように、胃の洗浄を
漁協青年部でチャレンジしてる

せっかくこんなに仲良くなったんだし、
何かみんなのできることは無いかな？



牛乳消費の活動で
なんかできることないべか

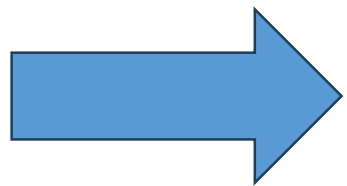
ある年の青年交流会で・・・

なにかまちの子どもたちに
できることはないだろうか？



後日の青年交流会幹事会（反省会）で・・・

- ・ なにか子どもたちが楽しめるイベントはできないか
- ・ 子どもたちに白糠町の産業を知ってもらいたい
- ・ 担い手不足はどの産業も抱えている悩み
- ・ せっかく青年交流会を通じて各青年団体が仲良くなれたんだから・・・



まずは子どもたちに白糠町を好きになってもらおう！

03

「産業まつり」の復活と青年たちの思い

「イルミネーション点灯式」

～平成30年度、平成31（令和元）年度に実施



平成30年度	「イルミネーション点灯式」
平成31（令和元）年度	「イルミネーション点灯式」
令和2年度	「イルミネーション点灯式」→コロナの影響により中止

「公民館機能的機能を活用した地域力向上モデル事業」を活用し、町内青年団体向けの学習会を行うほか、「広尾サンタランド」「しべつ未来塾」のメンバーから地域住民による事業運営について学び、同年町商工会で主催する商店街のイルミネーション点灯式に合わせ、子ども向け事業を実施。

商工会で3か年で計画をされていたイルミネーション点灯式事業だが、コロナの影響により2か年の実施となった。

令和4年度

「プチ産業まつり（第1回）」

令和5年度

「プチ産業まつり（第2回）」

令和6年度

「プチ産業まつり（第3回）」（9/22）

令和3年度はコロナ禍の影響により事業は実施できなかったが、その分いろんな意見を伝えあいながら、青年交流会幹事会メンバーで協議を進めていく。



令和4年度で初めて形に（反省も多かったけど、反響も多かった！）

コロナ禍を経てついに実現した「プチ産業まつり」



コロナ禍を経てついに実現した「プチ産業まつり」



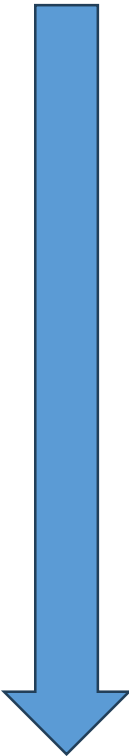
04

結局、社会教育は何をしたのか

「プチ産業まつり」実施の大まかな流れ

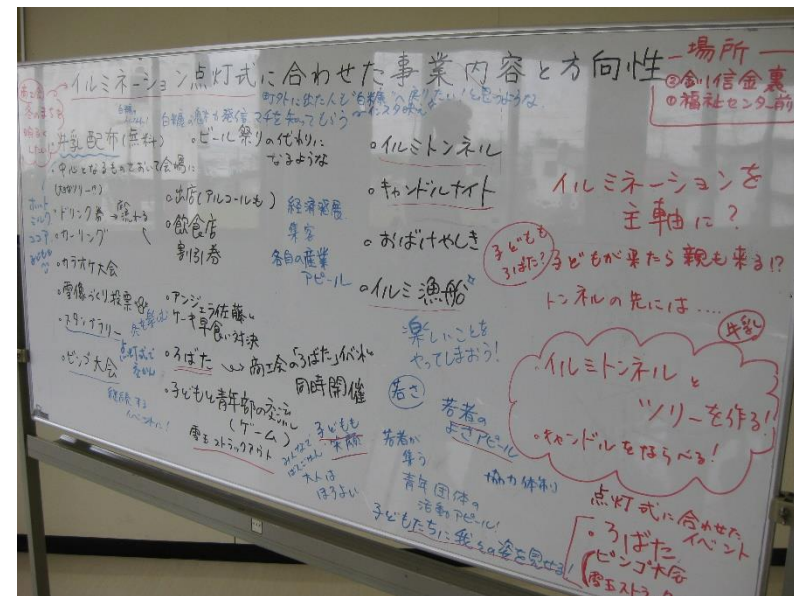
- ①各青年団体の交流が深まっていた
- ②「せっかくだし子どもたちのために」
- ③商工会主催の事業で経験を積む
- ④準備もできたし、いっちょやってみっか！

② 「せっかくだし子どもたちのために」

- 
- ◎イベントを考える中で、各青年団体の課題を示唆し、何を目的として事業を行うのかを整理（H30年度幹事会にて）
 - ・産業に興味をもつ→次代の担い手に向けてのアプローチ
 - ・ただイベントをやって終わり？
 - イベント参加者を消費者としてとらえ、地場産のもの消費につなげる（町内→町外とつながるように）
 - ◎他市町村の青年団体の活動紹介
 - ・本当にイベントなんてできるんだろうか
 - 他団体の活動を紹介し、ノウハウを学ぶ場を提供

③商工会主催の事業で経験を積む

結局、社会教育は何をしたのか

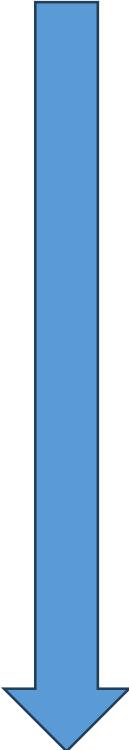


04

結局、社会教育は何をしたのか



③商工会主催の事業で経験を積む



◎過去2年間の事業を通じた反省をまとめ、事業をイベントを形にしていくことに！

→社会教育の手を離れ経済担当へ引き継がれる。

(タテ割りからの脱却？でも上司からは結構叱られました…)

④準備もできたし、いっちょやってみっか！

◎きっかけを見逃さずにアプローチできたこと

◎伴走していく中で、事業実施への機運を高めていけたこと

(◎途中で手を離すことができたこと)

社会教育がしたことはいくらだけ？
でもきっと大切なことだったはず・・・

05

まとめ

事例発表テーマ

「持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」

→ 「持続可能な社会」にするためには
「社会教育行政」は何をしたらいい？

(目的を達成するためにはどのような手段をとればよいか)

「誰を育てて、何をつないでいくか」

「まちの青年層を育てて、まちの産業を
子どもたちにつないでいく」

今回の事例は結果論ですが・・・

必ずしも必要ではない！

「（社会教育行政が） 誰を育てて、
（社会教育行政が） 何をつないでいくか」

- ・地域の想いを拾いあげること
- ・その中で必要な支援はすること

（手を貸さなくてもできることなら、やらない判断も大事！）

○私的な事例発表のまとめ（伝えなかったこと）

- ・ 地域や地域人のチカラは絶大！
- ・ 社会教育「発」だけでなく（これも大事だけど）
社会教育「着」となるような
働きかけを意識してみても・・・

ご静聴ありがとうございます。